

## 僕は後悔していない

彼女が僕をどう思っているか、僕は、歩きながら、考えた。

彼女の、今迄のいろいろな時の姿を、僕は、歩きながら、思い出していた。

とうとう、彼女が僕をどう思っているのか、僕は全くわからなくなってしまうた。

「彼女自身の口から聞こう。  
だめなら、さっさと帰ろう。」

懸命に暑い中を歩いた。

自分の姿があまりにも情けない、悲しくなってきた。

黙々と探す。

道が次第に寂れて来て、歩いている人もいなくなった。竹林になり、まっすぐ歩くにも、もう道がなくなる。多分、通り過ぎたのでは？

二時間ほど歩き続けた。行った道を帰って来たり、無駄足を踏んだ時間が長い。完全に水分が体から出て、もう汗は出ない。